

ベルギー王国		首都	ブリュッセル
 <p>伝統的な紋章の黒地に赤い舌を出した黄色いライオンからとっている。</p> <p>独立：1831/7/21 オランダより 国連加盟：1945/12/27 政体：立憲君主制</p>	国 の 概 要	国土	面積 3万 1,000 km ² (九州の 80%) 北海に面して、北部はフランドル平原が広がり、南下するにつれ標高が増し、南東部では丘陵性で、平均標高 500m のアルデンヌ高原となる。平野部は北海に面し、小川と運河による水路が発達している。北海岸には砂丘列があり、海面下の低湿地も見られる。
		人口	1,040 万人
		言語	オランダ語 (公用語)、フランス語 (公用語)、ドイツ語 (公用語)
		通貨	ユーロ
		気候	メキシコ湾流の影響で夏は冷涼、冬は温暖な西岸海洋性の温帯気候である。降水量は年間 1,750~1,000mm で季節による変動は少ない。冬は霧が多く晴天は少ない。内陸部の冬は積雪が多く厳しい。
		民族	フラマン人 (オランダ語系) 57%、ワロン人 (フランス語系) 32%、ドイツ語系
	宗教	カトリック 75%、プロテスタント 25%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育 6 年、中等教育 6 年である。 ・中等教育は普通科、技術系、職業系、芸術系に分かれている。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育・中等教育期間(6 歳から 18 歳)の 12 年間である。 ・ベルギーの教育制度は中央集権的ではなく、各共同体 (フランス語圏、オランダ語圏、ドイツ語圏) に教育に関する権限がある。 ・義務教育期間の経費は国家負担で、学区制はなく、フランス語、オランダ語の学習が義務付けられている。 ・その年の 12 月 31 日までに満 6 歳になる者は、その年の 9 月 1 日に義務教育の第 1 学年に入学する。 ・教育目標は、自己管理のできる人、知識のある人、自治力のある人、批評ができる人を育てて社会に送り出すことであり、学校教育の重点は学習の仕方を教えることとされている。 	

	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は9月1日～翌年の6月30日となっている。 ・3学期制を採っており、1学期は9月1日～12月21日、2学期は1月7日～3月21日、3学期は4月7日～6月30日となっている。 ・週5日制で、1クラス20名程度である。 ・経費は国家負担で、学区制はない。 ・教授言語は地域によりフランス語、オランダ語（フラマン語）ドイツ語となっている。 ・例えば、ブリュージュ市の私立の中等学校では、カリキュラムがギリシャ語古典課程、ラテン語古典課程、現代課程に分かれている。どの課程を選択するかによって、履修科目と履修単位が決まっている。オランダ語、フランス語、英語、ドイツ語の4カ国語のほか、宗教、コンピュータも必修になっている。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・高校受験や大学受験はない。医・歯学部を除いて、大学に行きたい人は所定の過程を経て希望すれば、基本的に入学できる。一部で入試制度が導入されようとしている。 ・一部のビジネス・スクールを除き、日本の私立学校のような高額な学費を払う教育施設がない。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳半～3歳より小学校入学まで保育園・幼稚園に通園する。しかし義務ではない。 ・費用はその家庭の収入による。1日あたり約14ユーロを支払うが、後で国からの払い戻し及び税金の控除制度がある。幼稚園の費用は給食とおやつ費（1ヶ月70ユーロ）のみで、弁当持参も許可されている。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は国・公立学校、自由学校（カトリック系や無宗教学校）、私立学校、日本の文科省にあたる機関の管轄外の学校があるが、学校選択権は保護者にある。 ・初等教育段階から学力不振による落第、ことばと文化的背景が異なる外国人受入問題、宗教的な問題等の課題がある。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みは、6月末～9月初めまでである。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・落第制度がある。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動は、小規模に課外活動を行っているところもある。
	学校行事の特徴	
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食は帰宅して食べるか、弁当持参か、給食を取るか、を

		選択できる。給食には菜食主義者のためのメニューもある。 1食あたり 3.72 ユーロ。
	チャイムや号令	・ない。
	校則	・制服はなく学校内の服装は自由である。私立校には制服がある。欠席は電話で連絡する。学校への伝言は毎日持ち帰る連絡帳で行う。 ・通学は、小学校の場合は保護者同伴である。 ・宿題はあるが、冬休みや夏休みにはない。 ・学校へは貴重品や必要以上の現金を持参しない。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・各学校単位の保護者会は一般的に組織されている。父母会は夜に開かれ、両親そろって出席し、学校や教師が行っていることに関して父母側は積極的に意見を表明する。
	子どもの一日	
	その他	・学校により、金曜日の放課後にはアカデミー・クラスとして、例えば、自然科学、統計、美術史、ロシア語、東洋の言語などの学習の場が提供されている。自由参加だが、多くの生徒がいずれかのクラスに参加している。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・オランダ語とフランス語とドイツ語が公用語であるが、母語以外の言語教育は「外国語教育」というよりも、国内で用いられる諸言語の習得という位置づけにある。6歳で初等教育が始まると、まず自分の住んでいる語圏の言語 A を母語として習い、初等教育 5 年生（10 歳）から、ベルギー国内で使われている A 以外の言語 B（オランダ語・フランス語・ドイツ語のいずれか）を学ぶ。
	その他	・チャンネル数の多いケーブルテレビが普及している。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ブラッセル補習授業校・・・・・・・・・・・・・・・・補習授業校ホームページ
- ・教育事情あの国この国・・・・・・・・・・・・・・・・全教研
- ・日本とベルギーの教育比較・・・・・・・・・・・・ヘイディ クニツプラト
- ・ベルギー外国語事情・・・・・・・・・・・・・・・・長谷川 祐里